日本学術会議 公開シンポジウム

# 生命科学データのオープンな流通・活用の再構築

## ― AI時代のデータ共有とガバナンスを考える ―



参加無料

**2026年9月27日（日） 13:00～18:00**

日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）

ZOOMによるオンライン同時開催

生物資源（生物多様性・バイオバンク）
医療データ（ヒトデータ）
メタゲノムデータ（自然界）
タンパク質構造データ
バイオイメージングデータ
AI・データ統合・解析基盤

ゲノム、タンパク質構造、医療情報、バイオイメージングなど多様な生命科学データは、重要な研究基盤です。これらのオープンな流通・活用には、個人情報保護、国際的利益配分、産業競争力、データ維持問題など、新たな課題が生まれています。さらにAIの存在がこれらの課題を拡大し複雑化しています。本シンポジウムでは、現在、取りまとめている提言の議論を出発点に、AI時代にふさわしいデータ共有とガバナンスのあり方を、多様な立場から考えます。

## スケジュール

- 13:00～13:05 開会挨拶・趣旨説明
  諏訪 牧子（連携会員／青山学院大学 理工学部）
- 13:05～13:25 特別講演①
  中田 栄介（文部科学省 ライフサイエンス課課長）
- 13:25～14:00 特別講演②
  相澤 彰子（連携会員／情報・システム研究機構 国立情報学研究所）
  AIエージェントと知識統合によるデータの流通・活用
- 14:10～15:40 第一部
- 15:45～17:15 第二部
- 17:25～18:00 パネルディスカッション
  モデレータ：有田 正規（連携会員／情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所）
- 18:00～18:05 閉会挨拶
  上田 昌宏（連携会員／大阪大学 大学院生命機能研究科）

※時間は目安です。進行により前後する場合があります。

## 第一部 14:10～15:40 ― 多様な生命データのケーススタディ ―

| | |
|---|---|
| 社会インフラとしてのバイオバンクにおけるデータガバナンスの現状と課題 | 木下 賢吾<br>東北大学 情報科学研究科 |
| 生物資源の現状とあるべき姿、特にDSI問題について | 鈴木 睦昭<br>特任連携会員/情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 |
| メタゲノムデータの価値と産業利用の未来 | 山田 拓司<br>東京科学大学 生命工学部 ／（株）メタジェン |

## 第二部 15:45～17:15 ― データの流通・活用を支える技術基盤 ―

| | |
|---|---|
| タンパク質構造データのオープンな利活用維持と今後の課題 | 栗栖 源嗣<br>大阪大学 蛋白質研究所 |
| バイオイメージングデータのオープン化への現状と今後の在り方 | 永井 健治<br>連携会員／大阪大学 産業科学研究所 |
| AIに対応するデータベースの在り方とデータ統合・解析基盤の技術開発 | 片山 俊明<br>情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 |

17:25～18:00 パネルディスカッション パネリスト：講演者全員

主催：統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同・バイオインフォマティクス分科会・生物物理分科会・IUPAB分科会・遺伝資源分科会・ゲノム科学分科会

世話人：諏訪牧子（青山学院大学 理工学部） 上田昌宏（大阪大学大学院生命機能研究科） 有田正規（情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所）

参加無料

最新情報・参加申込はこちら